日南市版　認知症高齢者等

ＳＯＳ見守り声かけネットワーク会議

～対応事例集～

令和３年３月

目　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P2

上手くいった事例・・・・・・・・・・・・・・・・　P3～10

- 帰宅欲求　P3
- 乗車拒否　P4
- 昼夜逆転の生活　P5
- 成年後見制度の活用　P6
- 関係機関との連携　P7～10

対応に困る事例への対応例・・・・・・　P11～13

はじめに

　認知症の人が行方不明になった場合、いなくなってすぐに気が付けば、近所で見つけられるかもしれませんが、時間が経てば経つほど遠くに行ってしまう可能性が高まり、探すのは困難になります。

　認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていくためには、地域の皆さんで認知症のある方やその家族を温かく見守り、支えていくことが必要です。

　この取り組みは、様々な業種・業態の団体に登録いただいている協力団体間の情報共有の一環として作成しました。

　認知症について正しく理解し、地域でのつながり（例えば、声かけをすることで、行方不明を未然に防ぐ）や日頃の業務の一助になれば幸いです。

上手くいった事例①【介護施設編】

帰宅欲求に苦慮していたが、対応を工夫し解決した事例

（症状）

家に帰りたいという強い希望

（原因）

自宅の畑のことを思い出し家に帰りたい

（対応）

花の手入れや野菜作り、シーツ交換など職員と一緒に行動し、自分なりに役に立っているとの思いを持たれるよう、職員間で連携を取りながら、見守りの徹底を行っている。

上手くいった事例②【介護施設編】

乗車拒否に苦慮していたが、対応を工夫し解決した事例

（症状）　送迎時の乗車拒否

（原因）　不明

（対応）

気持ちをリセットする別の行動を促すことで、何とか乗車していたが、乗車するのに時間がかかっていた。乗車順番を１番目にすると乗車されることが多いことに気付く。ある時、「〇〇できますか？」と聞くと「できるわ！」と答えられ、乗車する時にも、「ここに座ることができますか？」と聞くと、「できるわ！」と言われスムーズに乗車された。それ以降、「〇〇できますか？」と声かけすると「できるわ！」と言われ、拒否されることなくスムーズに乗車されるようになる。

上手くいった事例③【介護施設編】

昼夜逆転の生活に苦慮していたが、対応を工夫し解決した事例

（症状）

昼夜逆転の生活

認知症と精神疾患がまざったような状態

（原因）

高齢者独居生活、重度の認知症

（対応）

施設入所後に生活のリズムを作ると、家に居た頃よりも認知症の症状が緩和されることがある。

また、精神科処方薬をしっかり飲めているか確認を徹底し、状態が落ち着くまで服薬管理を行う。

上手くいった事例④【地域包括支援センター】

成年後見制度の活用により支援が進んだ事例

（状況）

障害のある息子と同居されていた高齢者自身の認知症進行により、生活管理が困難になった。

（対応）

法テラス制度活用にて、保佐人申立支援（※）を実施。息子の施設入所に伴い、本人（高齢者）も保佐人の協力のもと在宅生活を送っている。

※保佐人とは・・・・・・認知症や知的障害、精神障害などの理由で判断能力が不十分な人を支援する人のことです。

認知症が進行すると、不動産や預貯金などの財産管理や、介護、福祉サービスを利用するための手続きや契約等を結んだりすることが難しい場合があります。

また、自分に不利益な契約であっても、判断できずに契約を結んでしまい、訪問販売や振り込め詐欺などの悪質商法の被害に遭うおそれがあります。

このような判断能力の不十分な人を保護し、支援するのが成年後見制度で、「後見」「保佐」「補助」の3つに分けられます。

より詳しい内容については、成年後見制度の出前講座を開催しておりますので、ぜひ長寿課へお問合せください。

上手くいった事例⑤

異変を感じ関係機関へつないだ事例

（事案①）

一人暮らしの方が、近所の家に１日に何回も行くようになった。部屋の掃除もおろそかになり、異臭がしていたので、最寄りの地域包括支援センターへ情報提供した。

（事案②）

集金が終わっているのに何度も電話をかけてきたり、同じ話を何度も繰り返したりするようになったり異変を感じたので、市福祉課へ情報提供した。

（事案③）

いつも約束の時間には家にいる方が、３日続けて不在だった。すると、４日目の朝６時から何度も電話があり、会話するも話した内容を覚えておらず、その日の午前中のうちに 20 回近く着信があった。異変を感じ、市長寿課へ情報提供した。

協力団体の皆様におかれましても、日常業務の中で異変を感じる場合があるかもしれません。その場合は、お気軽にご相談ください。

関係機関の連絡先

部署名	電話番号
日南市 長寿課　地域包括ケア推進係	２７－３１５４
北地区 地域包括支援センター 【担当地区】飫肥、酒谷、北郷全域	２５－０４０８
中央地区 地域包括支援センター 【担当地区】 吾田（中平野、桜ヶ丘、松原団地を除く） 細田（下方、塩鶴、大堂津１～３区を除く）	２２－３３０１
東地区 地域包括支援センター 【担当地区】油津、東郷、鵜戸全域 吾田一部（中平野、桜ヶ丘、松原団地）	２３－６０９９
南地区 地域包括支援センター 【担当地区】南郷全域 細田一部（下方、塩鶴、大堂津１～３区）	６４－３１７８

対応に困る事例への対応例

　対応に困っている事例について、専門職へどのように対応したらよいかお聞きしました。

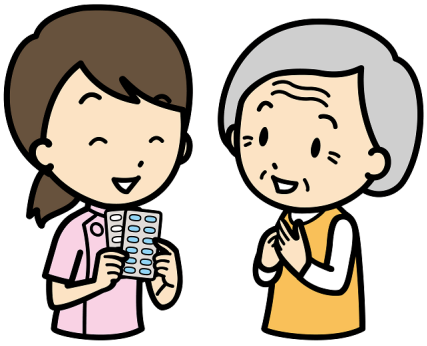
　状況や症状もひとりひとり異なりますので、対応方法も千差万別です。状況が良くなることもあれば、どんなに工夫しても解決しない場合もあります。対応例の一つとして参考にしていただき、お困りの場合は、ぜひお気軽にご相談ください。

（事例①）
　買い物を済ませた帰宅後に「品物が入っていなかった」「お金を多く払った」等の問い合わせがあることがある。丁寧に説明するも、理解いただくのに苦労するときもある。

（対応例）
　記憶には、「覚える」「キープする」「思い出す」という３つがあり、認知症になると、特に最初の「覚える」ことが苦手になります。
　同じことを何度も言うのは、何かしらの不安を抱えている場合や、誰かとつながっていたいという場合が多いので、何に不安なのか洞察してみてください。例えば、レシートを見ながらの確認を促す等、本人の不安の解消が解決につながることもあります。
　また、家族など身近な方の支援を依頼することができましたらお願いするのも一つの方法です。まずは、否定せずに話を聞いてみてください。

（事例②）家族が認知症を認めないために、支援が進まない。

（対応例）
　家族が認知症になるということは、受け止めがたい事実だと思われます。時間が経過し、受け入れる過程を経ることで家族の理解が深まるのではと考えます。認知症の方ご本人が一番不安だということ、一番辛いということを伝えながら、ご本人のために、適切な支援が受けられように何度も説明していくことをおすすめします。
　また、住民向けには、認知症について理解いただくための、「認知症サポーター養成講座」を開催しておりますので、ご希望がありましたらお気軽にご相談ください。



（事例③）
　薬への執着が強いのか、薬を飲んだことを忘れ「飲んでいない」と訴える。飲まれたことを伝えても「薬をください、渡してください」と興奮される。反対に、薬の飲み忘れがあり管理が難しい方がいる。

（対応例）
　薬への執着が強い方についても、まずは、かかりつけ医に相談することをおすすめします。
　飲み忘れがある方については、薬の量や回数を減らすことができる場合があります。本人にとって、薬を飲むことで体調が改善した実感がなく、薬への関心が低いのかもしれません。本人の薬を飲むパターンを把握し、「飲み忘れる」ことに注目するのではなく、「なぜ飲まないのか」「飲める方法はないか」本人の気持ちに寄り添い、状況を変えることをおすすめします。

（事例④）
　毎日夕方から翌朝にかけて、帰宅を訴えて施設内を徘徊する。職員のスキをついて、玄関や窓から外に出るので、目を離すことができない。睡眠薬を飲んでも、夜一睡もしないこともある。

（対応例）
　帰宅の訴えの本質は何なのか、「本人の不安」の原因を探ることをおすすめします。「不安」は、薬だけでは解決しづらいものです。睡眠薬で解決しない場合は、精神科を受診し対応を検討することも必要かもしれません。**認知症ちえのわ net**（https://chienowa-net.com/）では様々な対応事例が掲載されていますので、参考にされてください。

日南市版認知症高齢者等ＳＯＳ見守り声かけネットワーク会議

～対応事例集～

作成・発行：日南市　長寿課
協　　力：日南市認知症高齢者等ＳＯＳ見守り声かけネットワーク
協力団体登録事業所　４１団体
日南市認知症地域支援推進員
お 問 合 せ：日南市　長寿課　地域包括ケア推進係
〒887-8585　日南市中央通一丁目１番地１
電　話（０９８７）２７-３１５４
ﾌｧｸｼﾐﾘ（０９８７）２１-１４１０